

第4回日独通訳者養成セミナー参加感想文（1）

中央集権の日本と違い、連邦制のドイツでは通訳者が各地方都市に分散し、通訳研修会も地域単位でのみ開催されており、横のつながりを持ちにくい状況がある中、年に一度、独全土の通訳者及び通訳を志す者が一堂に会し、研鑽を積む機会があることは、日独語通訳の質向上にとり、欠かせない役割を果たしていると思われる。

それぞれ多様な経験・学習歴を持つ通訳者や学生が集うことにより、研修の場における意見やアドバイスは単語レベルにとどまらず、必然的に多角的なものとなり、それを文書化することにより、研修の成果は参加者に限定されず広く共有可能となり、通訳者養成という観点からも持続的な効果を持つ。

また、主催者が日本の高等教育機関であることは、ドイツ国内の通訳者の視点やつながりを超え、日本の視点や両国の接点をもたらし、非常に貴重であり有意義である。

さらに、独全土及び日本の日独語通訳（翻訳）者のネットワークが構築されることは、ニーズに合わせた通訳者の紹介や翻訳業務における協力を可能とし、通訳（翻訳）者のみならず、両国のクライアントにとっても好ましい展開である。

むろん、日独両国の通訳者間の情報交換・ネットワーク構築は一朝一夕では実現不可能であるため、本通訳者養成セミナーが長く継続し、さらに多くの通訳者・通訳学習者が参加の機会を得て、社会に還元できるようなシステムを作り、発展させることができるよう願う。

このような素晴らしい機会を提供してくださいました筑波大学ボン事務所のみなさまと講師のみなさまに心から御礼申し上げます。

(M.M.)

第4回日独通訳者養成セミナー参加感想文（2）

この度は第4回日独通訳者養成セミナーに参加させて頂きありがとうございました。お忙しい中企画や準備、各方面との連絡、調整、取り纏めなど、大変なご苦勞があったと思います。初めて参加させて頂いた為要領が分からず、お手伝いを募られた際にも手を挙げる余裕と度胸がなく、受動的な参加にとどまってしまったことを大変申し訳なく思っております。今回の経験を踏まえ、皆様にまとめていただいた記録等を参考にしながら、次回は何らかの形で少しでもお力になれば嬉しく存じます。

このセミナーの存在を知ったのは昨年のもので、ちょうど第3回日独通訳養成セミナーが終了した直後でした。HPに公開されていた情報から素晴らしいセミナーであることが伝わりましたし、通訳としてレベルアップするにはどうしたらよいか暗中模索の日々でしたので、次回セミナーが行われる際には是非参加させて頂きたいと思い、相澤先生にご連絡させて頂きました。それから約1年、セミナーの告知を頂いたときには、いよいよ憧れのセミナーに参加させて頂けるかも知れないという喜びと共に、経験豊富で才能ある通訳者の皆様の足をひっぱるのではないかという不安もありまし

たが、考えるより先に、半ば反射的に参加希望のメールを送っていたと思います。送った後も不安はありましたが、怖ければ怖いほど、終わってみれば自分にとってかけがえのない経験となるに違いないと自分に言い聞かせ、セミナーを楽しみにしていました。

そして、実際にかげがえのない経験となりました。まず、通訳を名乗ってお仕事をさせて頂いて、今回ほど自分の弱点や問題点を観察し、発見し、言語化し、反省したことはありません。語学力は通訳に必要な条件のうちごく一部でしかないことも痛感しました。はっきりと話すこと、聞き手に分かりやすい言葉を使うこと、発言内容がクリアに理解できるよう構造をすっきりとさせること、単語の持つ力、音声の持つ力の両方を使って感情やニュアンスの陰影を表現すること、冗長ならないよう注意することなど、さまざまな点から「気づき」を体験させて頂きました。そして、通訳された言葉を聴く側として、原文の持つ言葉の力を生かすも殺すも通訳の総合的な能力次第という事実を目の当たりに出来たことは、衝撃的であり、感動的でもありました。

今この感想文を書いていて悔しいのは、文章からは私の感動がほとんど伝わらないと確信出来ることです。それほど今回は、文章が本当に生き生きとした声に乗って伝わった時の感動や、声、姿勢、目線など、表現者としての総合的な技術が存分に活かされたパフォーマンスの威力を実感することが出来ました。これはもちろんセミナーを主催され、参加された素晴らしい通訳者の方々が、ご自身の知識、経験、能力といった「宝もの」をシェアしようと積極的に関わって下さったお陰です。そしてこうした方々が日本から、そしてドイツ全土から、同じ場所に集まり、同じ空気に触れ、同じ音声を共有しあったことが、このセミナーを意義あるものとした最大の要因であったと思います。

もしこのセミナーがビデオ会議のような性格のものであったら、少なくとも私はここまで感動することは出来なかったでしょう。皆さんの通訳をライブで体験することが出来たからこそ、五感と心に響く感動が得られ、乾いた競争心ではなく、温かみのある向上心がどんどん湧いてくるような、喜びを感じる事が出来ました。また、私から見れば羨ましい限りの才能あふれる方々でも、一人ひとりに悩みがあり、努力し、日々通訳技術の向上に取り組んでおられることが分かり、またそうしたたゆまぬ努力の結果が今日の姿であることも分かりました。皆さんと実際にテーブルを囲んでお話することがなければ、こうした事実を知ることもなく、皆さんに近づく努力を放棄し、自分を甘やかす言い訳ばかりが上達していたかも知れません。

私の立場からは、皆さんに教えて頂くばかりで、何もお返しが出来ませんでした。そんな気持ちもあり、最終日のお昼に、関川さんと Waldenberger さんと同じテーブルになった際にお二人に聞きました。「教えてもらってばかりで申し訳ないです。お二人も駆け出しの時には、先輩から注意を受けたことがあるのですか？」お二人とも、「当然よ」と笑って答えられました。そして、ご自身が先輩方から注意を受け、温かく育ててもらったからこそ、今自分が後輩に何かを教えらるるのであれば、伝えられることは伝えていきたいし、そうするのが当然だと思う、と言っておられました。このセミナー全体を通じて、皆さんの善意によってこのような素晴らしい会が実

現されていることは常に感じており、大変有難く思っておりましたが、はっきりとした言葉で聞くと、皆さんのご厚意に対して恥ずかしくないよう、責任を持って自分も努力して行かなければならないという、連帯感と小さな使命感のようなものが芽生えるのを感じました。

とは言え、私がお返しを出来るようになるにはまだまだ大変な努力と時間が必要です。足を引っ張らないよう精進していきますので、もし今後もこのようなハイレベルの通訳の方々が集まり、ご意見を賜ることの出来るセミナーが開催されるのであれば、例え参加費が高くなろうとも、是非参加させて頂きたいです。私には通訳の世界を俯瞰できるような経験も地位もありませんので、このセミナーが日独通訳会にとって、あるいは通訳業界全体にとって、どれほど有意義であり、あるいは稀有な成功例であるのかは、推し量ることしか出来ません。ですので、個人的な経験からしか申し上げられませんが、このセミナーはこれまで参加したどのような催しよりも、自分にとって得るものの大きいものでした。上に申し上げた通り、皆さんが実際に集まり、ライブで意見交換が出来たことが、大変感動的でした。このような場所を確保することや、先生方に遠くからお越し頂く上で、時間的、財政的な困難が伴うことは想像に難くありません。重ね重ね、皆さんのご厚意とご尽力に心より御礼申し上げます。と共に、可能な限り、是非今後も続けて開催されますよう、切にお願い申し上げます。

S.U.